

## 関東地域ブロック研究大会(2011年度)

<大会テーマ>

### 災害と社会福祉学

～災害国日本における社会福祉学の位置:3.11以後の日本の社会福祉学を構想する～

2011年3月11日の東日本大震災、津波、そして原子力災害は、われわれが戦後、経済の成長や安定を前提にして作り上げてきた社会システムや生活価値を大きく塗り替えるものとなった。3.11以後の日本をどう構想するのか、知を結集させ発信することがあらゆる学問分野にとって、社会的使命であろう。社会福祉学も例外ではない。とりわけ実践科学である社会福祉学は、多くの国民が生活危機に直面しているこの時こそ真価が問われているといっている。3.11以後の社会システムをどう構想するのか。災害国日本における学としての位置を確認し、次の50年を考える。

■日時:2012年3月10日(土)9:30～17:00(受付開始9:00)

■会場:東洋大学白山キャンパス

#### ■■記念講演■■

東洋大学教授 古川孝順 先生 (日本社会福祉学会前会長)

「社会福祉学は東日本大震災をどう受け止めるのか」(仮)

#### ■■大会シンポジウム■■

テーマ:災害国日本における社会福祉学～なにを追究し発信するのか～

#### 【演題/シンポジスト】

□被災地の貧困化をどう考えるのか

首都大学東京教授 岡部 卓 氏

□災害弱者への支援のあり方をめぐって

立教大学教授 河東田 博 氏

□被災地支援における子ども支援の実践から

東洋大学教授 森田 明美 氏

□被災地の視線で考える社会福祉学への期待

岩手県立大学教授 都筑 光一 氏

□【指定討論】阪神淡路大震災、東日本大震災の支援経験から

法政大学教授 宮城 孝 氏

◇コーディネーター:

山田知子氏 (大正大学教授) 大島 巖氏 (日本社会事業大学教授)

#### ■■教育セミナー■■

大島 巖氏 (日本社会事業大学)

「福祉実践家参画型プログラム評価と効果的プログラムモデルの形成の方法」

#### ■■自由研究報告■■

- ① 研究報告部門 (報告30分、質疑応答25分)
- ② 萌芽的研究報告部門 (報告15分、質疑応答10分)
- ③ 実践報告部門 (報告15分、質疑応答10分)